

Impact of serum adiponectin, plasminogen activator inhibitor-1, and oxidative stress levels on eosinophilic inflammation of the airway and the whole body in children with obesity

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-02-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東, 範彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032732

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 3082 号	氏 名	東 範彦
審 査 委 員 会	主 査 教 授	永田 智	
論文審査の要旨 (400 字以内) 当申請者は、6 歳から 15 歳の小児 41 人において、呼気性一酸化窒素濃度 (FENO) 及び末梢血好酸球数 (B-Eos) と、アディポサイトカイン、plasminogen activator inhibitor-1 (PAI-1)、酸化ストレスの関係について明らかにすることを目的として当検討を行った。その結果、FENO が 35ppb 以上の高値群 8 例でアディポネクチンは有意に低値であり、B-Eos は有意に高値であった。FENO は、B-Eos と正の相関を、B-Eos は、アディポネクチンとは負の相関、IgE、レプチン/アディポネクチン比、PAI-1、malondialdehyde-modified LDL/LDL 比とはそれぞれ正の相関を認めた。以上より、小児の肥満によって生じるアディポネクチン、PAI-1 の変化、酸化ストレスは、気道及び全身の好酸球性炎症と関連していると考えられた。小児の肥満は、気管支喘息の危険因子とされているが、アディポサイトカイン、酸化ストレス、好酸球性炎症との関連についての報告はこれまでなく、学位授与に値する新たな知見と考えられた。 本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]			